

2025年3月期 第1四半期決算説明会 Q&A

●第1回：2024年7月29日 (Q1~Q18)

●第2回：2024年9月9日 (Q19~Q21)

第1回 2024年7月29日 (Q1~Q18)		
Q1	SPE	今期(2025年3月期)・下期予想について、今回発表では据え置いているが、仮にアップサイドがある場合、こういったアプリケーションや地域になるか?
A1		先端ファウンドリー投資の前倒し、メモリーの NAND の投資回復規模など。地域で言えば、下期の中国向け売上比率は、今後の生産キャパシティの状況を見ながら受注をどこまで上げていくのか次第。
Q2	SPE	2Qの増収、減益予想の背景は?
A2		地域、顧客ミックスの両方が要因。また低マージンの評価機売上(元々、前期4Qでの売上想定だった)が2Q以降へスライドしたことも要因の一つ。逆に、評価機売上時期のスライドは、1Qの上振れの要因でもある。
Q3	SPE	下期の中国向け売上比率減少予想の背景は?また、来期以降の中国向け売上の見通しは?
A3		実際のところ足元の引き合いはまだそれほど落ちていない。現状40~50%の売上比率であり、今後減少したとしても30%程度の割合(従前のノーマルレベル)は保たれ、来期以降も主力の一地域であることには変わらないだろう。
Q4	SPE	NANDの投資再開について、どの程度の確度で見ている?
A4		ハイパースケーラーのサーバー投資タイミングがポイントだが、まだ動きは鈍い印象。投資再開のタイミングは、年末にかけてではないかと見ている。
Q5	SPE	バランスシート上で3月末と6月末を比較すると、契約負債が300億円減少しているが、その意味するところは、中国からの受注減少に関連している?
A5		前受金を頂いていた案件が1Qで売り上がったことが理由であり、順調に売り上げが立っているとご理解いただきたい。足元の中国からの受注は依然旺盛であり、前受金を頂く案件は、今後も続くとみる。
Q6	SPE	米国の輸出規制に関して、仮に米国が新たにFDPR規制(外国直接産品ルール)を利用した場合、米国のIP(知的財産)や部品を全く使用せずに出荷することは可能か?
A6		・今後規制がどのようになるかコメントする立場にないが、例えばチップ(半導体)を使っていれば米国の技術を利用することになるため、米国の技術無しで製造することはできない。 ・規制の動向については今後も注視していく。
Q7	SPE	下期中国向け売上の減少の背景は?生産キャパシティが律速してきていることに起因しているのか?
A7		われわれはお客さまと納期の合意をしてから受注処理をしているため、生産枠の割り当てに起因するところもある。来期に持ち越す分も若干あるだろう。
Q8	SPE	WFEの2024年の見方は据え置きだが、内容で何か入り繰りはあるか?また、WFEの2025年の見方については、前回(5月の決算発表時)から上方修正している?

A8		<ul style="list-style-type: none"> ・2024年については5%弱成長のイメージであり、その見方は変わっていない。中身で言うと、ロジック・ファウンドリーの投資は、2023年と2024年で横ばい程度と見ているが、内容は先端向けが多くなると考える。 ・2025年については、メモリー投資の増加によって、前回お示しした8%程度の成長という見立てより、強めになると考える。
Q9	SPE	中国向け売上比率減少が収益性に与える影響は？
A9		中国比率の減少は収益性に影響するが、今後は、装置の付加価値を上げる販売戦略によって、収益性を毀損しないようにしていく。
Q10	SPE	メモリー最大手攻略の状況は？
A10		個別のお客さまの状況にはコメントできないが、DRAMに関して言えば、FLA（フラッシュランプアニール：熱処理装置）で新たなビジネスの開拓をしており、そちらで売上を伸ばしていきたい。
Q11	SPE	1Qの営業利益率はよかったが、そのサステナビリティ（継続性）は？下期は少し下がる予想だが、いかが？
A11		<ul style="list-style-type: none"> ・2Q予想は、先に申し上げたミックスなどの要因もあり、（上振れは目指すものの）ある程度は固いと考える（現状、減少予想）。 ・下期について、現状お示ししている数値はコミットメントとして、それを上回るかどうかは、今後精査していきたい（上振れを目指したい）。
Q12	SPE	来期について、メモリー投資がWFEをけん引すると考えた場合、御社の来期の売上成長が、2025年のWFEをアウトパフォームする可能性はあるのか？
A12		<ul style="list-style-type: none"> ・前回のIRデイ（2023年9月）でお示したとおり、微細化に伴って、洗浄におけるわれわれのエクスポージャーが増えていく。また、新たなPOR獲得の取り組みも成果が出てくると考える。 ・マーケットシェアに関しては、われわれの手元の計算では、今年のシェアは伸びていくと考えている。売上比率の高い中国での成熟ノード半導体は、BEOL（バックエンド）より（当社が得意な）FEOL（フロントエンド）のプロセス比率が高いことも、シェア拡大要因になるう。
Q13	SPE	（先の質疑応答の内容から）生産キャパシティの制約はまだ解消されていないのか？上期下期で売上はほぼフラットであるが、S ³ -5も完成し、年間5,000億円の売上は可能はずだが、まだ下期予想（現状は2,300億円予想）売上を2,500億円などに伸ばす余地があるのでは？
A13		<ul style="list-style-type: none"> ・現状、S³-5の稼働率を徐々に高めていることに加えて、足元の受注状況も強く、下期計画に対して上振れを目指したい。 ・下期生産キャパシティが上がれば、中国比率の減少具合は（現状の想定より）若干緩やかになるだろう。
Q14	SPE	来期、絶対額で見た中国向け売上は減るのか？
A14		来期は絶対額も減ると考えている。市場の勢いはあるが、成熟ノードの中でもローエンドの半導体や、バッチ洗浄の分野では、中国洗浄機メーカーへのローカライズが進むことも要因。
Q15	SPE	上期の収益性に関して、売上30億円の増加に対し、営業利益は45億円も増加する背景は？
A15		期初想定よりもプロダクトミックスが良くなることが主要因。

Q16	HD/ SPE	営業利益増減分析に関して、1Qの前年同期比（プレゼン資料 P.11）では、採算性が55億円改善している一方、通期予想（プレゼン資料 P.24）では、採算性が0億円となっているのはなぜか？
A16		1Qでは採算性向上による利益増があったが、2～4Qではミックスの変化により採算性が若干マイナスになる見込みであるため。下期に関しては今後精査していく（先に申し上げたとおり）。
Q17	SPE	現状の中国売上において、2022年に出された米国 CHIPS ACT 規制の対象になるような先端の顧客比率はどれくらいか？ また、中国向け売上の中で、売上トップ3が占める比率は？
A17		・中国での投資は成熟ノード向けの投資であり、CHIPS ACT の対象は無いと認識している。われわれは日本の経済産業省のガイドラインに沿ったビジネスを展開しており、その枠組みの範囲内で、お客さまが投資されれば、売り上げるという状況。 ・（後日回答）四半期によって異なり、過半もあれば、それ以下の四半期もある。詳細は、お客さまの投資に関わる内容にて、お答え致しかねる。
Q18	SPE	イメージセンサー（画像素子）の投資がかなり落ちるとの見立ての背景は？
A18		以前より若干弱含むと考えていたが、実際のお客さまへのヒアリングの結果を反映し、現状、このような予想としている。
第2回 2024年9月9日（Q19～Q21）		
Q19	GA	1Qの振り返り、および今後の業績見通しは？
A19		1Qは、Drupa 展も盛況に終わり今後の売上増に期待。先期から今期への納入ズレが経費増・展示会前の買い控えを補完し、ほぼ計画通りに着地した。今後の見通しは、売上・営業利益も5月発表時から変化なし。リカーリングビジネスも引き続き堅調で、来期以降も安定推移する見通し。以前より、利益の出せる体制を構築できている。
Q20	FT	1Qの振り返り、および今後の業績見通しは？
A20		想定より進捗良く、上期業績を5月発表時から上方修正。下期は据え置き。通期、黒字化を見込む。この事業はリードタイムが長く、足元で受けている受注額から、今期の売上および製品構成はほぼ固まっている。
Q21	PE	1Qの振り返り、および今後の業績見通しは？
A21		売上、営業利益は5月発表時から据え置き。顧客ミックスや売上のタイミングなどにより四半期ごとに利益は多少波があるも、通期ベースでは安定的に推移する見通し。足元の市況は低迷しているが、今下期から来期の回復に向け、地固めの時期だと捉えている。

HD: ホールディングス、SPE: 半導体製造装置事業、GA: グラフィックアーツ機器事業、
FT: ディスプレー製造装置および成膜装置事業、PE: プリント基板関連機器事業

以上